

教科	国語		科目	現代文A	単位数	3
学年	3年		類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	高等学校 改訂版 新編現代文A (第一学習社)					
副教材(出版社)	新編現代文A学習課題集 (第一学習社)					
授業の概要	読むことを中心に教材の理解を深め、基礎的な知識を身に付けるとともに、グループ学習などを通して多様な思考に触れ、主体的な考察を行い、自身の思考を表現したり発表したりする。					
授業の目標	近代以降の様々な文章を読むことによって、我が国の言語文化に対する理解を深め、生涯にわたって読書に親しみ、国語の向上や社会生活の充実を図る態度を育てる。					
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)			学習目標		
	1 学期	1 言語と文化 ・犬も歩けば棒に当たる 2 小説を読む(一) ・調律師のるみ子さん 3 新しい発見 ・なぜ“コロンブスの卵”を描くのか 小説を読む(三) ・鼻		・文章の流れをつかみ、基礎的な読解方法を身に付ける。 ・小説読解の基本を確認し、短編小説の世界を鑑賞する。 ・筆者の主張・考えを適切に読み取る。 ・歴史に材を採った小説が現代的な問題を主題化することを理解する。		
	2 学期	1 詩を味わう ・永訣の朝 2 小説を読む(六) ・山月記 3 人間と文化 ・花女房 4 小説を読む(一) ・デューク 5 小説を読む(四) ・卒業		・表現上の特色について理解する。 ・漢文的な表現が醸し出す独特の雰囲気や、その表現のおもしろさを味わう。 ・「人間」とは何かということについて考えを深める。 ・論の展開に即して文章を正確に読解できるようにする。 ・「生死」を扱った文章に触れ、他人の気持ちに寄り添ったり想像したりする。 ・「働くこと」や「他者との関わり」から、自己を見つめ直す契機とする。		
	3 学期	1 人間と社会 ・支え合うことの意味		・「支え合い」がなぜ各人の存在にとって必須の条件となるのか、自らの経験と照らし合わせて考える。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	文章を読む楽しさを味わい、文章に親しむとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めようとしているか。			近代以降の文章を読み、文章に表れた思想や感情を読み取り、自分の考えを深め、発展させているか。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けているか。	
備考	3つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。					

教科	地理歴史	科目	日本史A	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・地域ビジネス科		
教科書(出版社)	高等学校改訂版 日本史A 人・くらし・未来(第一学習社)				
副教材(出版社)					
授業の概要	教科書の内容を精選し、近代日本の確立の過程と軍部ファシズムの確立から敗戦にいたる過程、また人々の生活文化や思想を理解する。その中で、単に歴史用語を暗記するのではなく、歴史的背景、歴史的意義、当時の人々の考え方をつかむ。				
授業の目標	わが国の近現代史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察させ、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を養い、国民としての自覚と国際社会で平和を愛する日本人としての資質を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1部 私たちの時代と歴史 第2部 近現代の日本と世界 1 近代国家の形成と国際関係の推移 (1) 近代への胎動 (2) 開国と幕末の動乱 (3) 近代国家の形成 (4) 国際関係の推移と近代産業の発展	<ul style="list-style-type: none"> ・開国と幕末の動乱の推移を理解する。 ・明治維新の意義と帝国憲法の特徴を理解し、東アジア情勢を考察する。 ・日清・日露戦争の経過と意義を理解する。 ・武士社会の経済システムの崩壊から資本主義の成立と発展の過程を理解する。 		
	2 学期	2 両大戦をめぐる国際情勢 (1) 第一次世界大戦と日本 (2) 第二次世界大戦と日本 3 現代の日本と世界 (1) 日本の再出発	<ul style="list-style-type: none"> ・両世界大戦への参加した理由と朝鮮・中国への権益の拡大について理解する。 ・軍部ファシズム体制の成立から敗戦にいたる過程を理解する。 ・戦後の民主化推進について理解する。 		
	3 学期	(2) 独立後の政治と経済大国への道 (3) 現代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> ・経済大国から経済的停滞になる過程と日本の国際的役割について理解する。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 の技能	知識・理解	
	日本近代史への関心と課題意識を深め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生きようとする資質を養う。	近現代史の事件・事象から課題を見だし、文化の多様性と現代社会の特質を多面的・多角的に考察するとともに、公正に判断する。	日本近現代史に関する興味と理解を深めるため、身近な生活文化や地域の歴史についての情報を活用する方法を身に付ける。	日本の近現代史についての基本的な事柄を、世界の歴史や生活文化と関連付けながら理解し、その知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書（出版社）	高等学校 改訂版 政治・経済（第一学習社）				
副教材（出版社）					
授業の概要	教科書に沿って、本文の内容を理解し、議論する。概論だけでなく、時事的トピックも扱いながら現代社会の諸課題を深く学ぶ。				
授業の目標	多角的な視点から現代社会の諸問題についてより深く理解を深め、人間としてのあり方生き方について主体的かつ公正に判断、考察する力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容（単元・項目）		学習目標		
	1 学期	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本原則と日本国憲法 第2章 現代の国際政治と日本	民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。民主主義のあり方について理解するとともに、現代政治の特質について把握する。望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。		
	2 学期	第2編 現代の経済 第1章 現代経済のしくみと特質 第2章 国民経済と国際経済	経済の基本的な概念や経済理論を学習することによって、現代経済の特質について考える。家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解させる。国際経済に関する基本的な概念や理論を理解しながら、国際経済における日本が果たすべき役割について考察する。		
	3 学期	第3編 現代社会の諸課題	現代の日本が抱える課題を、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな視点から考え、望ましい解決のあり方を考える。それぞれの課題には、さまざまな角度からの対応策があることを把握しながら、幅広い視点から考察することを身に付ける。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代の政治、経済、国際関係に対する関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考えようとする。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる事柄から課題を見だし、その本質や特質、望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察するとともに、社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえ公正に判断する。	現代の政治、経済、国際関係にかかわる諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報を主体的に選択し活用するとともに、追究し考察した過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治、経済、国際関係に関する基本的な事柄や、本質、特質及び動向をとらえる基本的な概念や理論を理解し、その知識を身につける。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科・商業科		
教科書(出版社)	新編 地学基礎(数研出版)				
副教材(出版社)	改訂版リト ^α Light ノート地学基礎(数研出版)、三訂版リト ^α 地学基礎(数研出版)				
授業の概要	地球がプレートの運動や太陽の放射エネルギーによって変動してきたこと、宇宙と惑星としての地球の特徴、地球環境と人間生活とのかかわりについて学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探求する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	序編 惑星としての地球 第1編 活動する地球 第1章 地球の構造 第2章 プレートの運動 第3章 地震と地殻変動 第4章 火山 第2編 移り変わる地球 第1章 地層の形成 第2章 古生物の変遷と地球環境	<ul style="list-style-type: none"> 地球の形・大きさの測定の仕方や構造などについて、スケールも含めて理解する。 プレートの運動について学び、火山活動と地震活動が総合的に一つの仮説にまとめられることを理解する。 地震の性質と地殻変動について理解を深める。 火山活動と、その結果として形成される岩石について学ぶ。 太陽エネルギーと重力がどのように地形の変化や堆積作用にかかわっているかを学ぶ。 地球と生命の関係の理解を深める。 		
	2 学期	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支 第2章 大気と海水の運動 第4編 地球の環境 第1章 地球環境の科学 第2章 日本の自然環境 第5編 宇宙の構成 第1章 太陽と恒星 探求活動	<ul style="list-style-type: none"> 大気圏の構造と、地球の熱収支について理解する。 海洋も大気の運動と同じように熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。 時間スケールの大きな現象を考える場合は、全地球的にとらえることが必要であることを理解する。 日本の自然環境の特徴と、そこで起こる災害を理解する。 太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学ぶ。また、恒星の進化の過程や時間的なスケールを理解する。 		
画	3 学期	第2章 宇宙のすがた	<ul style="list-style-type: none"> 太陽系の天体に関して、系統的に学習し、理解を深める。 ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・実験の技能	知識・理解	
	・身近な自然事象について興味と関心をもちながら、積極的な態度で授業に取り組むことができる。	・簡単な仮説をあげ、その処理実験と対照実験を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・観察実験で得られたデータをもとにして関連する知識を整理できる。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	理科	科目	化学基礎	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	改訂 新編 化学基礎 (東京書籍)				
副教材(出版社)	ニューサポート新編化学基礎 (東京書籍)				
授業の概要	化学が物質を対象とする科学であることを理解し、実験・観察を行うことで、化学が人間生活に果たしている役割について学習する。				
授業の目標	日常生活や社会との関連を図りながら科学への関心を高め、目的意識をもって実験・観察を行い、身のまわりにある化学に興味・関心をもたせるとともに、元素記号や周期表、化学の基本的な法則や概念を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	序編 化学と人間生活 1編 物質の成り立ち 1章 物質の探究 2章 物質の構成粒子	<ul style="list-style-type: none"> 物質と人間生活の関連、歴史について理解する。 生活のいろいろな場面で化学の知識が必要であることを理解する。 物質の構成粒子としての原子の構造について理解する。 試薬を安全に扱う方法や、基本的な実験器具の名称と使用法を習得する。 周期律と周期表の構成について、族や周期の意味を理解する。 		
	2 学 期	3章 物質と化学結合 2編 物質の変化 1章 物質と化学変化 2章 酸と塩基	<ul style="list-style-type: none"> イオン結合や金属結合、共有結合などの化学結合の仕組みについて理解する。 有効数字について理解する。 物質の考え方と化学反応式の書き方について理解する。 化学反応式の示す量的な関係について理解する。 酸と塩基の定義や性質を理解する。 中和滴定の実験を通して、指示薬や実験器具の名称と使用法を習得する。 		
	3 学 期	3章 酸化と還元	<ul style="list-style-type: none"> 金属のイオン化傾向について理解し、いろいろな金属の反応性について考察する。 電池のしくみについて理解し、身のまわりの酸化還元反応について化学的に考察する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	実験・観察の技能	知識・理解	
	・自然の現象について興味と関心を持ち、積極的な態度で授業、実験に取り組むことができる。	・授業内容について科学的な捉え方ができている。 ・授業内容と社会や生活との関連を考えることができる。	・実験計画に沿った観察・実験の実行と結果の整理を行う。 ・実験器具の操作やデータ処理を適切に行うことができる。	・学習内容について理解を深めることができる。 ・基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	保健体育		科目	体 育		単位数	3	
学年	3 年		類型	流通経済科・情報ビジネス科・地域ビジネス科・商業科				
教科書(出版社)	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)							
副教材(出版社)	現代高等保健体育ノート 改訂版(大修館書店)							
授業の概要	心と体を一体としてとらえ、健康・安全や運動についての理解と運動の合理的な実践を通して、生涯にわたって計画的に運動に親しむ資質や能力を育てるとともに、健康の保持増進のための実践力の育成と体力の向上を図る運動を実践します。							
授業の目標	<p>1 各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができる能力や態度を育成します。</p> <p>2 集団行動を正しく理解し、秩序正しく能率的に行う能力を養い、スポーツにおいて安全と運動効率の向上を目的とし、自己管理を積極的に行う資質を育成します。</p>							
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)			学 習 目 標				
	1 学 期	<p>1 体づくり運動</p> <p>(1) 体ほぐしの運動</p> <p>ア 集団行動(応用動作)</p> <p>イ ストレッチング</p> <p>(2) 体力を高める運動</p> <p>ア 時間走</p> <p>イ 持久走(スポーツテスト)</p> <p>2 球技選択Ⅰ</p> <p>(1) テニス</p> <p>(2) バドミントン</p> <p>(3) 卓球</p> <p>3 体育理論Ⅶ</p>		<p>・自主的な集団行動の定着と日々の活動の中での応用を目指します。</p> <p>・主運動を行う前の、正確な準備運動やストレッチを学びます。</p> <p>・自分の体力の実態を知るため、体力テストを行います。</p> <p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計について学びます。</p>				
	2 学 期	<p>4 球技選択Ⅱ</p> <p>(1) ソフトボール</p> <p>(2) バレーボール</p> <p>(3) ハンドボール</p> <p>5 球技選択Ⅲ</p> <p>(1) サッカー</p> <p>(2) ハンドボール</p> <p>(3) バスケットボール</p> <p>(4) 卓球</p> <p>6 体育理論Ⅷ</p>		<p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p> <p>・豊かなスポーツライフの設計について学びます。</p>				
	3 学 期	7 球技選択Ⅲの続き		<p>・個人技能や集団的技能の程度に応じてゲームができるようになります。</p> <p>・各技能を発揮し、攻撃と防御を展開し、勝敗を争うことの中から作戦を立て、工夫をすることの楽しさや喜びを味わい、生涯スポーツに生かします。</p>				
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度		思考・判断		運動の技能		知識・理解	
	<p>・運動の楽しさや喜びを深く味わうために自ら進んで運動しようとしている。</p> <p>・公正・協力・責任などの社会的態度が身に付いている。</p>		<p>・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題を見つけ出している。</p> <p>・課題解決を目指し、工夫している。</p>		<p>・運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する事項を理解し、身に付けている。</p>		<p>・自己体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。</p>	
備 考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には、各学期の評価を平均し、総合的に評価する。							

教科	外国語	科目	コミュニケーション英語Ⅲ	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	Vivid English Communication III NEW EDITION (第一学習社)				
副教材(出版社)					
授業の概要	1 単語やイディオムの意味を辞書で調べて内容の概要を把握しておく。 2 予習の段階で分からなかった箇所の説明を聞いてノートを取るとともに、ペアワークやグループワークなどを通して自己表現を行う。				
授業の目標	1 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。 2 情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	Lesson 1 Happy Nations Lesson 2 "Gamification": Games May Save the World Get Ready 1 Get Ready 2 Get Ready 3 Get Ready 4 Get Ready 5 Get Ready 6 Lesson 3 Spider Silk Spun into Violin Strings	<ul style="list-style-type: none"> 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすことができる。 学習のポイントは、助動詞+have+過去分詞 / 独立不定詞 / 省略 / 無生物主語 / 代動詞 / 部分否定)などであり、音読・暗唱して読解力向上を目指す。 		
	2 学期	Lesson 4 Can Cellphone Recycling help African Gorillas? Lesson 5 Gagaku, the Music of the Universe Lesson 6 Etymology: Wonders of Words Lesson 7 A Lesson from Steve Jobs' Life	<ul style="list-style-type: none"> 説明文、伝記、心理など様々なジャンルの題材を通して必要な情報を読み取ったり、環境・自然、文化・コミュニケーションに関連する語句を確認する。また、その情報をもとに適切な表現活動を行う。 学習のポイントは、完了形(受け身) / 分詞構文(過去分詞 It is said that ... / 比較級+比較級 / 分詞構文(完了形) / 関係副詞(非制限用法) / 準否定語などを身に付けて語彙力や表現力を高める。 長めの文章を読んで読解力向上を目指す。 学習のポイントは、have + O + 過去分詞 / as if+ 仮定法などである。 		
	3 学期	Lesson 8 Water : The Biggest Problem in the Century	<ul style="list-style-type: none"> 長めの文章を読んで読解力向上を目指す。 学習のポイントは、there is no use ~ing / ask + O + for ~ / used to ~などである。 		
観点別 評価	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
	本文を読んだ後に、感想や意見を発表しようとしたり、発表をしっかりと聞いたりする。また本文内容に関する質問に積極的に答えようとする。	本文に関連する自分の経験や、本文への意見をクラスメイトに説明することができる。パラグラフごとに本文の内容を要約することができる。	聞いたり読んだりした英語の題材について概要や要点をとらえることができる。また、そのために必要な語句や表現、文法事項などの知識を活用することができる。	英語の音声的な特徴や英語を使用している人々の文化的背景について理理している。また、語句や表現、文法事項などの知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基き、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	外国語	科目	中国語入門	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・地域ビジネス科		
教科書(出版社)	高校生からの中国語(白帝社)				
副教材(出版社)					
授業の概要	1 各レッスンでテーマに応じた文法事項を学び、読んだり書いたりして練習する。 2 中国語の決まりや文の形を正しく理解し身に付ける。				
授業の目標	1 ペアやグループ学習を通して、自分の考えを相手に正しく理解してもらえるよう、積極的に会話練習を行う。 2 中国語によるコミュニケーション能力の向上を図る。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	発音:母音1 発音:声調 発音:子音1 発音:母音2 発音:子音2 発音:母音3 発音:母音4 声調の発音 唐詩:春曉 第1課:私は高橋美恵です 第2課:私は希望高校の生徒です	<ul style="list-style-type: none"> 様々な種類の「発音」を学び、中国語独特の母音と子音の発音を身に付ける。 「声調」を学び、第一声、第二声、第三声、第四声、轻声の違いを聞き分ける。 唐詩を音読し、発音練習の総まとめをする。 「姓」と「叫」の使い方を学び、簡単な自己紹介をする。 数字と数え方、量詞「个」、「几」や「多少」の使い方を学び、自分の学校を紹介する。 		
	2 学期	第3課:私は東京に住んでいます 第4課:私は6時半に起きます 第5課:私は絵を描くのが好きです 第6課:自己紹介 第7課:どこで会いますか 第8課:希望高校へどう行きますか 第9課:いくらですか	<ul style="list-style-type: none"> 家族の呼称、動詞「在」の使い方を学び、自分の家のことについて紹介する。 時刻の言い方、時間を表す言葉の順序を学び、一日の生活を紹介する。 「喜欢」の使い方を学び、自分の趣味や好きなことを紹介する。 年齢の聞き方や言い方を学び、自己紹介のまとめをする。 月、日の言い方や「在」の使い方を学び、待ち合わせの約束をする。 「怎么」+動詞、所要時間の聞き方と言い方を学び、目的地までの行き方や所要時間を尋ねる。 「还是」、指示代名詞の使い方を学び、買い物ができるようにする。 		
	3 学期	第10課:どこに行きましたか 第11課:中国に行きたいです 第12課:中国の友達への手紙	<ul style="list-style-type: none"> 「了」、形容詞の反復疑問文を学び、行動や感想について話す。 「想」、動詞+時間の長さについて学び、計画や希望を伝える。 手紙の形式、決り文句について学び、手紙を書く。 		
観点別 評価	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解	
	コミュニケーション活動を意欲的に図ろうとしている。学んだ文法を積極的に使おうとしている。	学んだ文法を使って、自分のことや考えなどを書くことができる。また、それらを活用して、まとまった文章を書くことができる。	文法を理解し、それを応用して文章を書くことができる。まとまった文章を読んだり、聞いたりすることができる。	単語、熟語、文法などについて、その意味や適切な使い方を理解している。日本語との文構造、文化の違いに興味を持っている。	
備考	4つの観点に基き、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	家庭	科目	家庭総合	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科・情報ビジネス科		
教科書(出版社)	家庭総合 ～自立・共生・創造～ (東京書籍)				
副教材(出版社)	2021年度 家庭科ノート、令和3年度 調理実習ノート基礎編 (愛媛県高等学校家庭科教育研究会)				
授業の概要	(1) 生活の科学と環境(住生活) (2) 生活の科学と環境(食生活) (3) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の3項目で構成する。これらの内容については、実践的・体験的な学習活動を中心とし、相互に有機的な関連を図りながら学習する。				
授業の目標	1 住生活・食生活に関する知識と技術を総合的に習得する。 2 学習した知識や技術を生かし、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を身に付ける。 3 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第8章 住生活をつくる (1) 住生活について考える (2) 住生活の計画と選択 (3) 住生活の文化 (4) これからの住生活 第6章 食生活をつくる (3) 食生活の安全と衛生 (5) 調理の基本 ◎ 調理実習 ○ ホームプロジェクトについて	<ul style="list-style-type: none"> 住居の機能を考え、平面図の基礎知識を得て、間取りを理解し、ライフステージにあった住居を考える。 住居を選ぶ際、室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を学び、バリアフリーの考え方を理解し、身に付ける。 気候風土に応じた様々な住居、地域社会との繋がりを理解し、持続可能な住生活とは何かを考える。 食品の選択保存や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 日常の食生活を振り返り、食生活の変化や問題点を知る。 食生活の自立に必要な基本的な調理技術を科学的な視点から学び、日常食を作れるようになる。 ホームプロジェクトの計画 		
	2 学期	(1) 食生活について考える (2) 食事と栄養・食品 (4) 生涯の健康を見通した食事計画 (6) 食生活と文化 ◎ 調理実習	<ul style="list-style-type: none"> 日常的な食品の栄養的特質や調理上の性質について科学的に理解する。 青年期の食事の重要性を理解し、各ライフステージの栄養的特徴を知る。 日本や地域の食文化を見直し、食文化を主体的に継承できるようになる。 		
	3 学期	第6章 食生活をつくる (7) これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 環境や食糧自給率の問題を考える。 生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	住生活・食生活などに関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的に取り組むと共に、実践的な態度を身に付けようとしているか。	住生活・食生活などについて見直し、生活課題を主体的に解決するために思考し、適切に判断し、工夫創造する能力を身に付けているか。	住生活・食生活などに関する基礎的・基本的な技術を総合的に身に付けているか。	住生活・食生活などについて、生活を充実向上するために必要な知識を総合的に身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期の評定を平均し、総合的に評価する。				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)					
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置く。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を育成する。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1編 企業会計の基礎 第2編 資産 第3編 負債 第4編 損益計算 第5編 財務諸表の作成	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び財務諸表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
		第6編 財務諸表の活用 発展学習	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。 ・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
	3 学 期	発展学習	・日商簿記検定の問題や全商会計実務検定の問題をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。 ・企業の経営者や社会人としての倫理観等を身に付ける。		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	
備考	考查点：70% 平常点(授業態度、提出物、課題、検定試験等)：30%				

教科	商業	科目	課題研究	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	課題研究の手引き(松山商業高校)				
副教材(出版社)	ビジネス文書実務検定模擬試験問題集(実教出版)				
授業の概要	1 ビジネスの諸活動における情報伝達手段としての文書の重要性を理解させるとともに、情報を効果的に伝える文書を作成し、発信する能力と態度を育てる。 2 職業資格の取得これまで学習した知識・理解の習得を確認しながら、上級資格取得を目指す。				
授業の目標	マルチメディアを活用してビジネス情報を創造的に表現し、分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得させ、情報通信ネットワークやソフトウェアを活用したプレゼンテーションなどにより、ビジネスにおける総合的な情報発信能力を育てる。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	(1) オリエンテーション (2) 形式別演習 (全商ビジネス文書検定) ① 速度 ② ビジネス文書 ③ 筆記 ④ 検定問題演習	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を効果的に伝える文書を作成する。 ・分かりやすく、説得力のある文書を作成するための知識と技術を習得する。 ・時間内に正しく正確な文字入力ができているか確認する。 ・手引きの記入を毎時確実にこなせる。 ・一学期を振り返り今後につなげる。 		
	2 学期	(3) マルチメディアの活用 ① 静止画像の莉字 ② 動画像の利用 ③ 音声の利用 ④ 情報の統合	<ul style="list-style-type: none"> ・作表問題についての解説を行い、理解させる。 ・各種機能や作表の内容について説明し学習する。 ・二学期の報告書を作成し、報告させ、生徒に発表させる。生徒の相互間の自己評価を行わせる。 		
	3 学期	(4) プレゼンテーション ① 口頭表現 ② 文章表現 ③ ソフトウェアの利用	<ul style="list-style-type: none"> ・課題研究報告書を作成し、発表させる。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	通信文書の仕組みについて学習し、関心を持ち主体的に取り組んでいるか。	文書の構成を様々な角度から考察し、それぞれに見合った処理が判断できるか。	文書作成が時間内に正しく行われ、学習した内容が適切に行われているか。	マルチメディアと関連づけた処理作成について基礎・基本的な知識が身につけているか。	
備考	①検定試験 ②授業態度 ③課題・提出物 で総合的に判断して評価する。				

教科	商業	科目	総合実践	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	総合実践 一企業取引を学ぶー 三訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	<p>1 これまでに学習してきた各科目の内容が、実際のビジネス活動でどのように関連しているかを体験的に学習する。</p> <p>2 ビジネス活動に必要な知識・技術を、模擬実践を通して、一連の業務の中で体験的・一体的に学習する。</p>				
授業の目標	<p>1 ビジネスに必要な基本的な知識・技術・態度を総合的に身に付け、それらを実際に活用できるようにする。</p> <p>2 ビジネス社会の有機的な関連を実践的に理解し、その中で自分が担当する職務についての自覚を深める。</p>				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	<p>第1章 総合実践を学ぶにあたって</p> <p>第2章 卸売商の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の目標と心得、学習方法を理解する。 ・卸売商の開始業務、経営計画、仕入業務、販売業務、月末・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	2 学 期	<p>第3章 倉庫会社の業務</p> <p>第4章 保険会社の業務</p> <p>第5章 運送会社の業務</p> <p>第6章 銀行の業務</p> <p>第7章 管理部の業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各会社(倉庫・保険・運送・銀行・管理部等)の開始業務、日常業務、月末 ・期末業務等に必要な知識・技術・態度を実践的な演習をとおして学習する。 		
	3 学 期	第8章 情報処理の業務	<ul style="list-style-type: none"> ・総合実践におけるコンピュータの利用の知識と技術を学習する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ビジネスの諸活動に関心を持ち、自ら考えて積極的に活動することができるか。 ・ビジネスに必要なマナーや知識を進んで習得しようとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会社の一員であるという意識を持ち、ビジネスマンとしてのマナー等に気をつけながら行動することができるか。 ・取引の流れや諸帳簿の起票および会計処理を正しく理解しているか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帳票作成に必要な個々の金額の計算方法を理解しているか ・取引に関する証票に基づく起票、帳簿記入ができるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記帳に必要な仕訳を理解しているか。 ・諸帳簿・諸表の作成ができるか。帳簿に基づき、財務諸表の作成ができるか。 	
備 考	4つの観点に基づき、各学期ごとに定期考査までの学習のまとめりにごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	商品開発	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	商品開発(実教出版)				
副教材(出版社)	商品開発問題集(実教出版)				
授業の概要	市場で売られている商品を開発する仕組みや手順を学習することで、ビジネスの 主役である商品が実際どのように企画され、生産され、消費者に購入されるにいた るかを学び実践できるようにする。				
授業の目標	1 商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性に おいて理解する。 2 商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1章 商品と商品開発 第2章 商品の企画	<ul style="list-style-type: none"> 商品の成り立ちおよび何を商品として考えるのか、商品提供に現状について理解する。 商品開発の意義、商品のライフサイクル、企業の社会的責任や法令遵守について認識する。 商品開発の手順と考え方について理解する。 環境分析、市場調査の考え方と方法を理解する。 商品開発の発想法や企画書の作成方法について理解する。 		
	2 学 期	第3章 商品の開発 第4章 商品開発とデザイン 第5章 商品開発と知的財産	<ul style="list-style-type: none"> 商品仕様と仕様書に基づいた詳細設計、およびコンピュータによる設計とその評価について理解する。 試作品の作成や評価、設計・仕様の変更を行う過程について理解する。 開発商品に関するテストの方法について理解する。 事業計画の立案について理解する。 商品開発においてデザインが果たす役割について理解する。 パッケージデザインの機能や種類、制作上の重視点について理解する。 知的財産権の重要性と特許権、実用新案権、意匠権、著作権、商標権について理解する。 		
	3 学 期	第6章 商品流通と流通を支える諸活動 第7章 総合実習	<ul style="list-style-type: none"> 流通の役割、流通の仕組みとその変化、および流通系列化について理解する。 商品流通における市場の役割と課題について理解する。 流通の動きと仕組みについて理解させる。 商品開発実習を行う。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関心を持っているか。 商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めているか。 適切に判断し、外部に表現する能力を身に付けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品を企画・開発し、流通させるために必要な技術を身に付け、商品開発に必要なデザインに関する技術を身に付け、合理的に計画し適切に活用できるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品開発に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。 顧客満足を実現することの重要性を理解しているか。 	
備 考	<ul style="list-style-type: none"> ・ 考查点：70% 平常点(実習、課題等)30% 				

教科	商業	科目	ビジネス経済応用	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	ビジネス経済応用(実教出版)				
副教材(出版社)	ビジネス経済応用問題集(実教出版)				
授業の概要	需要や供給などのミクロ経済理論及び景気循環や経済政策などのマクロ経済理論の基礎的な内容を学習させる。				
授業の目標	1 ビジネスに必要な経済に関する知識について学習し、経済社会の動向を理解する。 2 サービス経済社会に適切に対応する能力や態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第1章 サービス経済化とサービス産業 1 産業構造の変化と労働 2 サービス産業の現状 第2章 経済の国際化 1 企業の国際化・グローバル化 2 国際化の進展と国際収支 3 貿易の利益と課題 4 国際資本移動 5 外国為替	・わが国における産業構造の移りかわりや、サービス経済化の進展要因について、労働市場の変化、消費構造の変化を通して理解する。 ・対個人サービス産業や対事業所サービス産業の現状について、ビジネスの機会をとらえて成長した企業の具体的な事例を通して理解する。 ・企業は成長を求めて国際的なビジネス活動を展開し、その活動が国際化からグローバル化へ進展していることを理解する。		
	2 学期	第3章 金融市場と資本市場 1 金融取引の発達 2 貯蓄と投資の動向 3 金融市場と資本市場の役割 4 金融市場と資本市場の課題 第4章 企業経営 1 企業経営の特色 2 企業経営と外部環境 3 企業の社会的責任 4 企業の海外進出と経営	・金融市場の概念とその意義について確認し、企業の営業活動と資金調達を通して短期金融市場の概要について理解する。 ・資本市場の概要について、債券市場と株式市場を中心に理解する。 ・日本的経営の特色について、基本的な知識や概念の理解を通して考える。 ・経営理念の重要性について考察する。 ・企業の社会的責任を、具体的事例を通して把握し、その質的变化や環境問題への取り組み、社会貢献が求められている現状について考察する。		
	3 学期	第5章 ビジネスの創造と地域産業の振興 1 起業の手続き 2 新たなビジネスの展開 3 地域ビジネス事情	・起業の意義と経営理念の重要性、また、起業に対する支援制度について理解する。 ・事業目的や商号の決定、定款の認証と登記など、株式会社設立のための手続きの流れについて理解する。 ・わが国における新たなビジネスの現状について、具体的な事例を通して理解する。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	経済社会の動向について理解することを目指して、主体的に取り組もうとしている。	経済社会の動向について理解することを目指して、思考を深めている。	経済社会の動向への考察やサービス経済社会に適切に対応する基礎的・基本的な技術を身に付け、活用することができる。	経済や企業経営に関する基礎的・基本的な知識を身に付けているか。サービス経済社会に適切に対応することの重要性について理解しているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめごとに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	経済活動と法	単位数	3
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	経済活動と法(東京法令出版)				
副教材(出版社)	経済活動と法ワークブック(東京法令出版)				
授業の概要	ビジネスに必要な法規に関する基礎的な知識を習得し、経済社会における法の意義や役割を理解するとともに、経済事象を法的に考え、適切に判断して行動する能力と態度を身に付ける。				
授業の目標	1 経法に関する基礎的・基本的な知識を習得する。 2 経法の意義や役割について理解し、将来の経営に携わる際の様々な問題に対応する能力を身に付ける。				
年 間 学 習 計 画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学 期	第1章 法の意義と役割 第2章 権利・義務と財産権 第3章 契約と債権	<ul style="list-style-type: none"> 法の意義と役割や分類・形式や解釈について学習する。 権利、義務の基礎的な知識や権利の中心にある物権と債権について学び、知的財産権についても理解する。 売買契約と貸借契約、財産権の保護と不法行為について学習する。 		
	2 学 期	第4章 会社に関する法 第5章 企業の責任と法	<ul style="list-style-type: none"> 会社の種類と特徴、機関、資金調達、企業の再編について学習する。 企業の法令遵守の重要性を学習する。 紛争の予防と解決について学習する。 消費者保護に関する法規、雇用に関する権利や概要、また、その課題について学習する。 		
	3 学 期	第6章 経済環境の変化と法	<ul style="list-style-type: none"> 経済環境の変化の現状と法規のかかわりについて学習する。 		
観 点 別 評 価	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解	
	経済活動に関する法律に関心を持ち、主体的に取り組んでいるか。	様々な経済事象を法的に考察し、その解決方法や解決案を見出すことができるか。	経済の諸問題におけるトラブルの解決にあたり、学習した知識を適切に活用しているか。	授業を通じて学んできた民法など基本的な法規の知識を身に付けているか。	
備考	4つの観点に基づき、学期ごとに定期考査までの学習のまとめりに評価し、100点法で評価する。また、学年末の評価は、各学期の評価を平均し総合的に評価する。				

教科	商業	科目	財務会計Ⅰ	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	財務会計Ⅰ(東京法令出版)				
副教材(出版社)	完全段階式標準検定簿記問題集会計(東京法令出版)				
授業の概要	財務諸表に関する基礎的な知識と技術の習得に重点を置く。また、利害関係者に会計情報を提供する能力と態度及び、提供された会計情報を活用する能力と態度を育成する。				
授業の目標	1 財務諸表の作成に関する知識と技術を習得する。 2 財務会計の意義や制度について理解する。 3 会計情報を提供し、活用する能力と態度を身に付ける。				
年間 学習 計画	学習内容(単元・項目)		学習目標		
	1 学期	第Ⅱ編 貸借対照表 第3章 資産(流動・固定・繰延) 第6章 負債(流動・固定) 第8章 貸借対照表の作成 第Ⅲ編 損益計算書 第3章 損益計算書の作成	・資産、負債、純資産の種類と会計処理及び貸借対照表の作成をとおして、企業の財政状態を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・損益計算の意味と損益の区分、収益・費用の認識と測定及び損益計算書の作成をとおして、企業の経営成績を適切に報告するための基礎的な知識と技術を習得する。		
	2 学期	第4章 その他の財務諸表 第Ⅳ編 財務諸表活用の基礎 第1章 財務諸表の意義 第2章 財務諸表の見方 発展的な内容 第Ⅴ編 連結財務諸表 第1章 連結財務諸表	・財務諸表分析の意義及び財務諸表の見方について学び、財務諸表を活用するための基礎的な知識と技術を習得する。 ・連結財務諸表の目的と連結の範囲及び連結財務諸表の基礎について学び、連結財務諸表に関する基礎的な知識と技術を習得する。		
	3 学期	模擬演習	模擬演習をとおして、知識の深化と技術の慣熟を図る。		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	財務会計に関する学習に興味・関心を持ち、授業や課題に対して意欲的に取り組むなど、知識の深化と技術の向上に努めている。	会計に関する法規や基準の変更に対応し、適切な財務諸表を作成したり、利害関係者にとって有用性の高い分析をしたりするなど、主体的な判断を基に正確な作業ができる。	会計情報を利害関係者に提供する能力と態度及び提供された会計情報については、ビジネスの諸活動に適切に活用する能力と態度を身に付けている。	財務会計に関する基礎的・基本的な知識と帳簿作成技術、各種の数値を算出する方法を身に付けるとともに、経済社会において会計責任を果たすことの重要性について理解している。	
備考	授業態度、提出物、課題、定期考査、検定試験を総合的に判断する。				

教科	商業	科目	電子商取引	単位数	2
学年	3年	類型	流通経済科		
教科書(出版社)	電子商取引 新訂版(実教出版)				
副教材(出版社)					
授業の概要	電子商取引の基本的な仕組み、電子商取引のための Web システム構築、倫理、法制度、などの社会制度、情報セキュリティについて学ぶ。				
授業の目標	1 高度情報社会における企業の役割を理解させる。 2 情報通信ネットワークを活用した商取引の意義を理解させるとともに、それを行うための知識と技術を習得させる。				
年間 学習 計画	1 学期	学習内容(単元・項目)		学習目標	
		第1章 情報通信技術の進歩とビジネス 第2章 コンテンツの作成	<ul style="list-style-type: none"> 情報通信ネットワークの活用によるビジネス形態の変化に関心を持ち、身近な具体例でそれらの特徴を理解している。 電子商取引の長所・短所を理解し、その内容を具体的に表現できる。 図形、静止画、動画、音声などのファイル形式の違いにより、目的に応じた適切な方法を考え、表現できる。 ワードを用いて、基本図形や組織図、グラフなどを取り込み、編集できる。 		
	2 学期	第3章 ウェブデザインと広告・広報 第4章 ウェブページの公開 第5章 電子商取引とビジネス	<ul style="list-style-type: none"> ウェブデザインにおいて、顧客の立場に立ったコンセプトを自ら考え、それをウェブページに表現することができる。 ウェブページを制作し、公開するまでの基本的な手順を理解している。 ハードウェア・ソフトウェアに関する基礎知識を身に付け、その動きや仕組みについて説明できる。 電子商取引におけるさまざまな法律による規制について理解している。 		
		3 学期	<ul style="list-style-type: none"> 電子決済の意義や方法について理解している。 取引対象が異なる電子商取引の違いについて理解している。 電子商取引の現代社会における役割について理解している。 		
観点別 評価	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	ビジネスにおける電子商取引の必要性に気づき、電子商取引システムの構築に必要な知識や技能を積極的に学ぼうとしている。	知的財産権を意識したウェブデザイン設計を行うことができる。	図形や静止画、動画、音声などのコンテンツを利用した情報発信に必要な機器やソフトウェアの利用方法を身に付けている。	ビジネスにおける電子商取引の意義や役割を理解するとともに、ウェブページを用いて情報を効果的に伝えるための知識を身に付けている。	
備考	4つの観点に基づき、各学期ごとに100点法で評価し、学年末には各学期を平均し総合的に評価する。				